別表第４　施工管理記録様式

目　　次

様　式	名　　称
	（出来形管理関係）
1	出来形管理図表 品質管理図表（表紙）
2－1	出　来　形　管　理　図　表
2－2	度　　数　　表
3－1	測　定　結　果　一　覧　表
3－2	鋼管溶接測定結果一覧表
3－3	鋼管溶接、塗覆装点検表
3－4	管水路ジョイント間隔測定結果一覧表
3－5	埋設とう性管たわみ量管理表
3－6	鉄筋組立検査結果一覧表
4	杭　打　ち　成　績　表
	（品質管理関係）
5－1	$\overline{X}$－R管理データシート
5－2	$\overline{X}$－R管理データシート
5－3	$\overline{X}$－R管理図
6－1	X－Rs－Rm管理データシート
6－2	X－Rs－Rm管理データシートの２
7	X－Rs－Rm管理図

(出来形管理関係)

様式 1

平成　　年度　　工事

出 来 形 管 理 図 表

品 質 管 理 図 表

種　目

事業所　　支所　　受注会社名

注)　1. 出来形(品質)管理図表は、本表紙様式により、工種毎に綴るものとする。ただし、小規模工事については、監督職員の承認を得て、全工種分を一括綴りとすることができる。

2. 種目は、基準高、厚さ、幅等と記入する。

様式　2－1

出来形管理図表

工 事 名　　受注会社名

工 種 名　　測　定　者

管理基準値 A		規格値 B		測 定 単 位
＋	－	＋	－	

番号	月 日	測点	設 計 値 C	実 測 値 D	設 計 値 と の 差 E＝D－C	管理基準値との差 F＝¦A¦-¦E¦	設計値との差

記入事項

1. 「工種名」は、掘削（基準高（V））、フルーム（厚さ（T））、橋台工（中心線のズレ（e））等と記入する。
2. 「番号」の欄は、施工順位を記入し、「測点」の欄は当該測点番号を記入する。
3. 「月日」の欄は測定年月日を記入する。
4. 設計値との差の単位を定め、目盛りに数値を記入する。
5. Fを算出する¦A¦値は、E＞0の場合は＋側の値を、E≦0の場合は－側の値を用いる。また、¦A¦値が＋側か－側の片方、若しくは両方にない場合は、その符号側はF＝「－」とする。

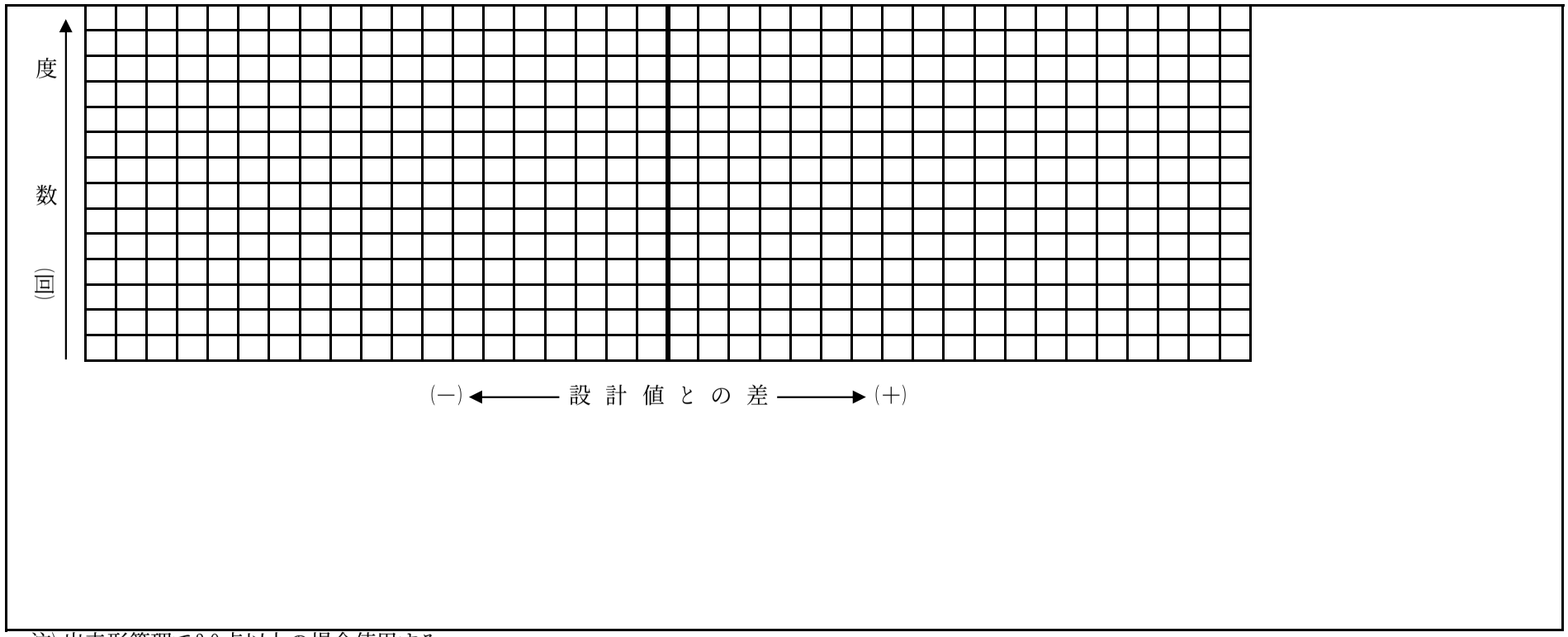
測定箇所図

様式 2－2

度　数　表

工 事 名
工 種 名
平 成　　年　　月　　日 現 在

受注会社名
測　定　者



注) 出来形管理で20点以上の場合使用する。

様式 3－1

測定結果一覧表

工事名　　受注会社名

工種名　　測定者

管理基準値 A		規格値 B		測定単位
＋	－	＋	－	

管理基準値 A		規格値 B		測定単位
＋	－	＋	－	

番号	月日	測点	設計値 C	実測値 D	設計値との差 E＝D－C	管理基準値との差 F＝|A|-|E|

番号	月日	測点	設計値 C	実測値 D	設計値との差 E＝D－C	管理基準値との差 F＝|A|-|E|

記入事項

1. 「工種名」は、掘削（基準高（V））、フルーム（厚さ（T））、橋台工（中心線のズレ（e））等と記入する。
2. 「番号」の欄は、施工順位を記入し、「測点」の欄は当該測点番号を記入する。
3. 「月日」の欄は測定年月日を記入する。
4. Fを算出する|A|値は、E＞0の場合は＋側の値を、E≦0の場合は－側の値を用いる。また、|A|値が＋側か－側の片方、若しくは両方にない場合は、その符号側はF＝「－」とする。

様式 3－2

鋼管溶接測定結果一覧表

工事名　　受注会社名

工種名　　測定者

測定位置	実測値				管理基準値	摘要
	X	Y	X’	Y’		

様式　3－3

鋼 管 溶 接 、 塗 覆 装 点 検 表

工 事 名　　受注会社名

測　定　者

測定位置	工　　種	項　　目	判　定		摘　　要
			良	否	

様式　3－4

管水路ジョイント間隔測定結果一覧表

工事名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

受注会社名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

測定者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

管種名(呼び径)	測定年月日	測定位置(管番号)	測定値(接合時)					管理基準値	判定	備考	測定年月日	測定値(埋戻後)				(参考)規格値	判定	備考
			a	b	c	d	平均					a	b	c	d			

注　1. 管理基準値は接合時の値であり、4箇所の平均とする。

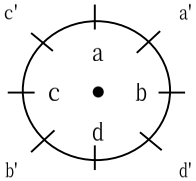
2. (参考)規格値は埋戻し後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。

3. 測定は、呼び径700mm以下の場合は管の外から測定しても良い。
また、埋戻し後の測定は、原則として呼び径700mm以下の測定は必要ない。

4. 管の外から測定する場合の測定位置は、a'、b'、c'、d'の位置とする。

5. 強化プラスチック複合管のD形の場合は、受口側と挿口側を各々測定すること。

測定箇所



＜記載例＞

測定位置	測定値				
	a	b	c	d	平均
NO.〇〇受	(受口側データ記載)				
〃　挿	(挿口側データ記載)				

(参考)

標線による計測　　ジョイント間隔＝受け口長l_2－(標線長h－測定長x_1)

標線によらない計測　　ジョイント間隔＝受け口長l_2－(管有効長L－測定長x_2)

様式　3－5

埋設とう性管たわみ量管理表

工事名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　受注会社名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

管種(長さ)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　測定者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

測定位置(管番号)	管据付時				管頂埋戻し時				埋戻し完了時				D+t (mm) (内径) (管厚)
	Dυ mm	たわみ率 %	Dh mm	たわみ率 %	Dυ mm	たわみ率 %	Dh mm	たわみ率 %	Dυ mm	たわみ率 %	Dh mm	たわみ率 %	

たわみ率の計算

$$\frac{\Delta X}{2R} \times 100\ (\%)$$

$\Delta X = [2R-(D\upsilon+t)]$又は$[2R-(Dh+t)]$

2R:管厚中心直径

t:管厚

注) 1. マーキング位置における測定値を記入する。

2. 測定については「土木工事施工管理基準」別表第1 直接測定による出来形管理　管水路工事　管水路(埋設とう性管)の測定基準による。

3. 矢板引抜き時の測定は、「管頂埋戻し時」の欄に測定値を記入する。

様式 3－6

鉄 筋 組 立 検 査 結 果 一 覧 表

工 事 名 ：　　受注会社名 ：

工 種 名 ：

番号	測定年月日	径(mm)及び本数(本)		中 心 間 隔 (mm)				かぶり (mm)			組立状況 (継手長、曲げ状況、結束等)	備　考
		設計値	判定	設計値	検査値	設計値との差	判定	設計値	検査値	判定	判　　定	

測定箇所 ： (設計上の位置及び名称)

測　定　者

記入事項

1. かぶりの許容誤差は±φかつ最小かぶり以上とする。
2. 鉄筋間隔の許容誤差は±φとする。
3. 判定欄は合格、不合格を記入する。

様式 4

杭打ち成績表

工 事 名 ：　　受注会社名 ：

工 種 名 ：　　測 定 者

杭打込み 月　日	杭番号	杭規格	測 定 時 杭深度(m)	ハンマー 落下高(cm)	打込回数	リバウンド (cm)	平均沈下 量(cm)	支持力(kN)	摘要

杭配置図

適用公式名:

設計支持力:

(品質管理関係)

様式 5－1

$\overline{X}$ - R 管理データシート

工事名		受注会社名	
工種名(名称)		測定者	
項目名(品質特性)		作成者	

設計基準値 A	規格値 限界 上限	規格値 限界 下限	測定単位
	+	-	

日標準量		
資料	大きさ	
	間隔	
作業機械名		

月日	測点	組番の号	測定値 X_1	測定値 X_2	測定値 X_3	計 ΣX	平均値 $\overline{X}$	範囲 R			
		1									
		2									
		3								$\overline{X}$	$\overline{R}$
		4							平均	$\overline{\overline{X}}$	$\overline{R}$
		5							累計		
小計									小計		
		6									
		7									
		8									
		9							平均	$\overline{\overline{X}}$	$\overline{R}$
		10							累計		
小計									小計		
		11									
		12									
		13									
		14									
		15									
		16									
		17									
		18									
		19							平均	$\overline{\overline{X}}$	$\overline{R}$
		20							累計		
小計									小計		

(注)
1. 管理限界線の引直しは、5-5-10-20-20方式による。
2. 21組から40組までは別のデータシートに記入する。以下、20組ごとに同様とする。

記事

記入要領
1. 「項目名」はコンクリート(セメントの物理試験)、道路工(含水量試験)等の品質特性を記入する。
2. 「月日」の欄は測定年月を記入する。
3. 「番号」の欄はSTA又はロット番号である。
4. 「測点」の欄は当該測点番号を記入する。

n	d_2	A_2	D_4
2	1.13	1.88	3.27
3	1.69	1.02	2.57
4	2.06	0.73	2.28
5	2.33	0.58	2.11

様式 5－2

$\overline{X}$ - R 管理データシート

工事名	受注会社名
工種名（名称）	測定者
項目名（品質特性）	作成者

設計基準値 A	規格値 限界 上限	規格値 限界 下限	測定単位
	+	-	

日標準量		
資料	大きさ	
	間隔	
作業機械名		

月日	測点	組番の号	測定値 X_1	測定値 X_2	測定値 X_3	計 ΣX	平均値 $\overline{X}$	範囲 R			
									平均	$\overline{\overline{X}}$	$\overline{R}$
									累計		
小計									小計		

特記	

(注)
1. 管理限界線の引直しは、5-5-10-20-20方式による。
2. 21組から40組までは別のデータシートに記入する。以下、20組ごとに同様とする。

記入要領
1. 「項目名」はコンクリート（セメントの物理試験）、道路工（含水量試験）等の品質特性を記入する。
2. 「月日」の欄は測定年月を記入する。
3. 「番号」の欄はSTA又はロット番号である。
4. 「測点」の欄は当該測点番号を記入する。

n	d_2	A_2	D_4
2	1.13	1.88	3.27
3	1.69	1.02	2.57
4	2.06	0.73	2.28
5	2.33	0.58	2.11

様式 5－3

$\bar{X}$ - R 管理図

設計基準値		工事名			事業所名		
名称		日標準量			期間	自	年 月 日
品質特性		規格値限界	上限値			至	年 月 日
測定単位			下限値		受注会社名		
測定方法		試料	大きさ		現場代理人		
作業機械名			間隔		測定者		

$\bar{X}$					
R					
組の番号					
記事					

注) 1.管理図は、別紙$\bar{X}$-R管理データシートから記入する。
2.記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。

様式 6－1

X-Rs-Rm 管理データシート

名称			工事名			測定期間	自　年　月　日
品質・特性			事業所名				至　年　月　日
測定単位			日標準量			受注会社名	
規格限界	上限値		試料	大きさ		現場代理人	
	下限値			間隔		測定者	
設計基準値			作業機械名			作成者	

月日	試験番号	測定値 a	b	c	d	計 Σ	平均値 $\overline{X}$	移動範囲 Rs	測定値内の範囲 Rm	$\overline{X}\pm E_2\cdot\overline{Rs}=$			
										$D_4\cdot\overline{Rs}=$			
										$D_4\cdot\overline{Rm}=$			
	1												
	2												
	3										X	Rs	Rm
	4									平均	$\overline{X}=$	$\overline{Rs}=$	$\overline{Rm}=$
	5									累計			
	小計									小計			
	6									$\overline{X}\pm E_2\cdot\overline{Rs}=$			
	7									$D_4\cdot\overline{Rs}=$		$D_4\cdot Rm=$	
	8									平均	$\overline{X}=$	$\overline{Rs}=$	$\overline{Rm}=$
	小計									累計			
										小計			
	9									$\overline{X}\pm E_2\cdot\overline{Rs}=$			
	10									$D_4\cdot\overline{Rs}=$			
	11									$D_4\cdot\overline{Rm}=$			
	12									平均	$\overline{X}=$	$\overline{Rs}=$	$\overline{Rm}=$
	13									累計			
	小計									小計			
	14									$\overline{X}\pm E_2\cdot\overline{Rs}=$			
	15									$D_4\cdot\overline{Rs}=$			
	16									$D_4\cdot\overline{Rm}=$			
	17												
	18												
	19									平均	$\overline{X}=$	$\overline{Rs}=$	$\overline{Rm}=$
	20									累計			
	小計									小計			

記事

n	d_2	D_4	E_2
2	1.13	3.27	2.66
3	1.69	2.57	1.77
4	2.06	2.28	1.46
5	2.33	2.11	1.29

注）1. 規格限界、設計基準値は設計図書に定められた値を記入する。
2. 管理限界線の引直しは5-3-5-7-10-10-10方式による。

（備考）———— 管理限界計算のための予備データの区間を示す。
- - - - - - - - 上記の管理限界を運用する区間を示す。

3. 以下、最近20個（平均値 x を1個とする）のデータを用い、次の10個に対する管理限界とする。

様式 6－2

X - Rs - Rm 管理データシートの 2

月日	試験番号	測定値計 a	b	c	d	Σ	平均値 X	移動範囲 Rs	測定値内の範囲 Rm				
										$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{Rs} =$			
										$D_4 \cdot \bar{Rs} =$			
										$D_4 \cdot \bar{Rm} =$			
											X	Rs	Rm
										平均	$\bar{X} =$	$\bar{Rs} =$	$\bar{Rm} =$
										累計			
	小計									小計			
										$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{Rs} =$			
										$D_4 \cdot \bar{Rs} =$			
										$D_4 \cdot \bar{Rm} =$			
										平均	$\bar{X} =$	$\bar{Rs} =$	$\bar{Rm} =$
										累計			
	小計									小計			
										$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{Rs} =$			
										$D_4 \cdot \bar{Rs} =$			
										$D_4 \cdot \bar{Rm} =$			
										平均	$\bar{X} =$	$\bar{Rs} =$	$\bar{Rm} =$
										累計			
	小計									小計			
										$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{Rs} =$			
										$D_4 \cdot \bar{Rs} =$			
										$D_4 \cdot \bar{Rm} =$			
										平均	$\bar{X} =$	$\bar{Rs} =$	$\bar{Rm} =$
										累計			
	小計									小計			
記事										n	d_{31}	D_4	E_3
										2	1.13	3.27	2.66
										3	1.69	2.57	1.77
										4	2.06	2.28	1.46
										5	2.33	2.11	1.29

注) 1. 管理限界線の引直しは5-3-5-7-10-10-10方式による。

(備考) ———— 管理限界計算のための予備データの区間を示す。
- - - - - - - - 上記の管理限界を運用する区間を示す。

2. 以下、最近20個(平均値 $\bar{x}$ を1個とする)のデータを用い、次の10個に対する管理限界とする。

様式 7

X - Rs - Rm管理図

設計基準値		工事名			事業所名		
名称		日標準量			期間	自	年 月 日
品質特性		規格値限界	上限値			至	年 月 日
測定単位			下限値		受注会社名		
測定方法		試料	大きさ		現場代理人		
作業機械名			間隔		測定者		

X	
Rs	
Rm	
組の番号	
記事	

注) 1. 管理図は、別紙X-Rs-Rm管理データシートから記入する。
2. 記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。